



Vol.25

榊陶和の渡辺です。「ありがとう通信」を読んでいただきありがとうございます。

今回は「私の履歴書①」榊村田製作所の時代を何部作になるかわかりませんが、書かせて頂きます。昔は父親がそれなりの会社に勤めていると子供も入社しやすかった。そのために、お袋から「正道は長男で父親がいないので、小さな会社で働いていると、弟、妹が就職先が限られてしまう。大きな会社に勤めて欲しい。」と言われていた。私の就職する時代は、父、兄弟の会社を履歴書に書く習慣があった。今では考えられない。現在は小さな会社でも思う存分自分を出し切り、心から働ける環境を優先する。村田技術研究所（現在の村田製作所）の新聞広告を発見。履歴書を送る。日曜日に学科試験。数日後、面接の日程の手紙がきた。面接日は普通の日で、私は「働いているので、12時～13時の間で面接をお願いします。」と電話を入れた。四人の面接官が昼食を食べていたが、名前を告げて面接を受けた。今でも覚えている言葉、「村田技研は私を採用するべきだ。仕事はできる。」「私を採用して貴方方四人は鼻が高々になる。」とたいそうなことを言い放った。そして、後日、夜間高校から帰ると、電報が届いていた。「明日、村田技術研究所へ来社されまし、朝八時」。ビックリ仰天、お袋にすぐ報告したのを覚えている。翌朝七時四十分研究所にたどり着いた。社員番号は「178」であった。研究所の人事担当者が当時私が勤めていた会社に出向き、事情を話して、(転職の) 了解を取ってくれた。1ヵ月後、私は人事部に「一日休みをください。」と話して、以前の会社にお礼の言葉を言いに行った。奥さんが仕事の取り方を話して欲しいと言われ、初めて口にした。社長が「体を大切にせよ。」奥さんは「よく働いてくれたね。初めてだよ、君みたいな人を見たのは。村田技研でも人に負けないでね。時々私達を思い出してよね。」と、自分の財布から五百円を手渡してくれた。心の底から嬉しかった。「ありがとうございました。お世話になりました。」私は泣きながらそう言った。可愛がって頂いた得意先に挨拶に行ってもいいかと了解をもらい向かった。得意先から褒めてもらった。「君は変わっていたね」、「がんばれよ。何かあったら訪ねて来い。」とも言ってくれた。嬉しい一言だった。私の技術頭の誕生は、「株式会社村田製作所」のお陰である。昭和三十四年九月一日から勤め始める。私の人生は村田製作所から始まる。「感謝・感謝の村田製作所」。流れは時系列に沿わず、思い出しながら書いていきます。今度は自転車出勤じゃなくて、初めての電車通勤。朝六時に家を出て会社へ。その後、夜間高校へ行き、演劇の稽古を終えて電車で23時に家に帰る。正直きつかった。しかし、仕事は京大・阪大卒生に負けない根性で、本も読み24時間考え、努力し仕事の夢しか見なかった。続きはまた次回へ。

とうわ
株式会社陶和
代表取締役
渡辺正道



〒183-0011 東京都府中市白糸台3-37-4
T:042-369-3131 F:042-369-3184 Email:w@kktowa.co.jp